

TRC Report

高井リサーチセンター
H28 年度報告書

<Web 版：限定公開>

京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻
高井リサーチセンター運営委員会

施設概要

【名 称】高井リサーチセンター

【開設日】2008年9月10日

【場 所】京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻
〒606-8501 京都市左京区聖護院川原町53

【建物概要】2008年に既設の人間健康科学系校舎の1～4階部分に1,400平方メートルを増築し、そのうち1,100平方メートルが産学連携推進を目的としたリサーチセンターとなっております。

4階：高井リサーチセンター研究室 II

3階：高井リサーチセンター研究室 I

2階：情報理工医学講座研究室

1階：高井ホール・高井コーナー

【設立経緯】高井リサーチセンターは、高井保治氏（株式会社フジタカ代表取締役社長（当時））が本学の教育研究環境の充実及び産学連携推進に寄与するため、その建設費用の一部を寄附されたのを受けて設立されました。



高井リサーチセンター側本専攻入口

TRC Report

高井リサーチセンターH28年度報告書

京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻

Contents

| | |
|------------------------------------|----|
| ○TRC研究室研究経過報告 | 2 |
| TRC研究室 I | |
| ● 再生リハビリテーション開発に関する研究プロジェクト | 3 |
| ● 生体機能・性状の新規イメージング技術の開発と臨床応用プロジェクト | 10 |
| TRC研究室 II | |
| ● 難治性血液腫瘍疾患に対する新規治療法の開発プロジェクト | 15 |
| ○高井ホール 2016 年度利用記録 | 32 |
| ○高井コーナ 2016 年度利用記録 | 36 |
| ○編集後記 | 39 |

高井リサーチセンター（TRC）研究室研究経過報告

平成29年3月末をもって、現行の3つの期限付き産学連携プロジェクトが終了期限をむかえます。TRC研究室Ⅰでは、平成26年度よりスタートした2つの3年間のプロジェクト研究が、またTRC研究室Ⅱでは、平成24年度からスタートした5年間のプロジェクト研究が行われてきました。本報告書には、この3つの産学連携プロジェクトの平成28年度の研究成果を紹介します。（なお、具体的な内容に関しましては、知的財産の関係もあり限定的な公開となりますことをお許しください。詳細について関心をお持ちの方は下記にプロジェクトリーダーのメールアドレスを載せていますので、お問い合わせください。）

TRC研究室Ⅰ（平成26年4月～平成29年3月）

- 再生リハビリテーション開発に関する研究プロジェクト 3
プロジェクト代表 理学療法学講座 准教授 青山朋樹
blue@hs.med.kyoto-u.ac.jp

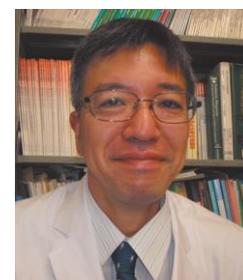


- 生体機能・性状の新規イメージング技術の開発と臨床応用プロジェクト 10
プロジェクト代表 情報理工医療学講座 教授 椎名 毅
shiina@hs.med.kyoto-u.ac.jp



TRC研究室Ⅱ（平成24年度4月～平成29年3月）

- 難治性血液腫瘍疾患に対する新規治療法の開発プロジェクト 15
プロジェクト代表 検査応用開発学講座 教授 足立 壮一
adachiso@kuhp.kyoto-u.ac.jp



再生医療実用化のための新規医療機器開発及び人材育成プロジェクト

青山 朋樹

京都大学大学院人間健康科学系専攻理学療法学講座運動機能開発学分野

1. 背景

再生医療は既に多くの領域で臨床応用が開始され、日本国民のみならず全世界の期待を集め、すでにその有効性も数多く報告されてきている。iPS細胞の活用法は単なる細胞移植だけでなく、創薬などの分野においても世界をリードする高い信用力を有しているが、その開発においては強い競争力を必要としている。これと同時に急務であるのが再生医療を担う人材、病院内オペレーション、移植後の身体調整、支援器機の充足である。

2. 目的

再生医療を担う人材を育成するためには高度な教育システムを構築する必要がある。本研究においては高度教育システムを構築し、再生医療支援機器を開発する人材育成を目的とする。同時に再生医療の基盤を整備するための開発研究を行い、再生医療実際の際のリハビリ、看護などの医療技術や品質評価、支援器機、細胞搬送機器などの周辺技術開発を目的とする。

3. 研究科横断型教育プログラム

今年度も研究科横断型教育プログラム「次世代医療を語る」はAMED厚労科研「再生医療支援人材育成コンソーシアム構築(研究代表:東京医科歯科大学 赤澤智宏教授)」とのジョイントプログラムで実践した。本プログラムは京都大学iPS細胞研究所の金子新准教授と京都大学iPS細胞研究所の支援を受け、作成を行い、2016年10月5日～2017年1月25日まで計14回の系統講義を実施した。

講演会には医学研究科人間健康科学系専攻のほかにも他部局からも多く受講した。



(以下 限定公開)

7. 謝辞

本研究は、高井リサーチセンター研究室にて実施されました。本学の研究環境の充実のためセンター設立にご支援いただきました、高井保治様に感謝の意を表します。

Shear wave 伝搬解析による組織粘弾性の定量的イメージング Quantitative imaging of tissue viscoelasticity based on shear wave propagation analysis

Tsuyoshi Shiina

*Graduate School of Medicine, Kyoto University
53 Kawahara-chou, Shogoin, Sakyo-ku, Kyoto 606-8507, Japan*

I. INTRODUCTION

Diagnosing chronic liver disease in the early stage is necessary for the treatment of liver disease because chronic hepatitis C virus disease progresses towards cirrhosis which often leads to liver cancer [1]. Recently, in addition to chronic hepatitis attributable to virus, NASH (non-alcoholic steatohepatitis) as malignant fatty liver is increasing. NASH will also develop progressive liver fibrosis, leading to cirrhosis and increased risk of cancer.

At present, the gold standard for the assessment of liver fibrosis is liver biopsy, which is invasive with patient discomfort and concomitant disease risk. In addition, the accuracy of liver biopsy is limited because of significant intra- and inter observer variability and sampling errors [2–4]. Thus, there is need for a non-invasive method to quantify hepatic fibrosis and fat, which is a biomarker for hepatic disease and the metabolic syndrome.

Shear wave elastography has been developed as a method of imaging tissue elasticity and is expected to noninvasively evaluate liver fibrosis progression in chronic hepatitis. However, conventional shear wave elastography based on time-of-flight method often causes artifact due to reflection and refraction of shear wave within tissues. Therefore, truly quantitative shear wave elastography must be developed in consideration of the reflection and refraction of shear wave. In addition, as well as elasticity, viscosity is also necessary to characterize tissue properties related with pathological abnormality.

The purpose of this study is to development methods for imaging quantitative viscoelasticity of tissues by analysing shear wave propagation within tissues and to investigate approaches for early diagnosis of liver fibrosis with the proposed imaging method and considering tissue viscoelastic model.

ACKNOWLEDGEMENTS

This work was partly supported by the Grant-in-Aid for Scientific Research on Multidisciplinary Computational Anatomy (15H01120), from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), Japan. This paper is reformatted version of ref [16] for the report.

本研究は、高井リサーチセンター研究室にて実施されました。本学の研究環境の充実のためセンター設立にご支援いただきました、高井保治様に感謝の意を表します。

(以下 限定公開)

難治性血液腫瘍疾患に対する新規治療法の開発

足立 壮一 adachiso@kuhp.kyoto-u.ac.jp

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 検査応用開発学講座

1. はじめに

我々の講座が主要テーマとしている『難治性造血器悪性腫瘍・固形腫瘍における新規共通増殖機構の解明とそれをターゲットとした検査法、治療法の開発』研究を応用し、さらに深化・実用化するために(1)～(3)を通じて発展的な**新規バイオマーカー・検査法・治療法**の開発を行う。

(1)難治性腫瘍の新規予後因子の探索 とそれを利用した新規検査法・治療法
開発 **A:**急性骨髄性白血病の新規予後因子探索 **B:**難治性白血病及び固形腫瘍の共通機構の解明 **C:**腫瘍共通低酸素機構の新規制御法の開発 **D:**腫瘍共通エピジェネティック機構をターゲットとした薬剤開発

(2)新規技術の開発 **A:** Xeno-Graft Banking 新規マウス生体内ヒト腫瘍細胞増幅技術 **B:** フローサイトメーターによる白血病微小残存病変の検出 (国際プロジェクト JPLSG AML FCM-MRD) **C:** レーザーマイクロダイセクション法の開発 **D:** iPS 細胞の効率的樹立法開発

(3)易感染患者の多剤耐性菌感染症に対するオートファジー機構による**好中球殺菌能増強効果**の機序検討

今年度については上記のうち、(1)の中の難治性固形腫瘍及び悪性リンパ腫の共通機構の解明についてのみ、報告する。

(以下 限定公開)

謝辞

本研究はAMED研究費「小児骨髄系腫瘍に対する標準的治療法の確立」、の研究助成を受けて行いました。また、本研究は、高井リサーチセンター研究室にて実施されました。本学の研究環境の充実のためセンター設立にご支援いただきました、高井保治様に感謝の意を表します。

【高井ホール 2016 年度利用記録】

高井ホール（最大収容人数 35 人）は高井リサーチセンター 1 階北側に位置し、産学連携。学科内連携プロジェクトの拠点として講演会、研修会、講義に利用されている他、学部・大学院の入学試験や、教職員の交流の場としても広く利用されています。2016 年度は下記に示す 139 件の利用がありました。

| 日付 | 会議名等 | 人数 |
|------|-----------------------|----|
| 4/6 | 生活習慣病看護学セミナー | 20 |
| 4/12 | 西垣・西山合同ゼミ | 12 |
| 4/12 | 検査技術科学専攻臨床実習講義 | 28 |
| 4/13 | 検査技術科学専攻臨床実習講義 | 28 |
| 4/20 | 成人看護学演習 | 35 |
| 4/20 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 4/25 | 細胞組織学実習の発表会 | 45 |
| 4/27 | 成人看護学演習 | 35 |
| 4/27 | 生活習慣病看護学ゼミ | 15 |
| 4/30 | 田村研究室ゼミ | 12 |
| 5/4 | 生活習慣病看護学ゼミ | 15 |
| 5/11 | 成人看護学演習 | 35 |
| 5/11 | 臨床看護学講座歓送迎会準備 | 35 |
| 5/11 | 臨床看護学講座歓送迎会 | 35 |
| 5/12 | 生活習慣病看護学セミナー「看護労働と政策」 | 20 |
| 5/17 | ドイツ医療団医師・助産師との意見交換・交流 | 30 |
| 5/18 | 成人看護学演習 | 35 |
| 5/18 | 生活習慣病 | 15 |
| 5/18 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 5/19 | 糖尿病看護セミナー | 8 |
| 5/21 | 大学院説明会(理学) | 30 |
| 5/22 | 大学院説明会(理学) | 30 |
| 5/25 | 生活習慣病看護学ゼミ | 15 |
| 6/1 | 生活習慣病看護学ゼミ | 15 |
| 6/9 | 入試企画課によるオープンキャンパス下見 | 5 |
| 6/14 | 検査技術科学専攻臨床実習講義 | 28 |
| 6/14 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 6/15 | 検査技術科学専攻臨床実習講義 | 28 |
| 6/16 | 生活習慣病看護学CNL特別講演 | 30 |

| | | |
|------|---|----|
| 6/17 | 生活習慣病看護学CNL特別セミナー | 30 |
| 6/18 | 植物を用いる補完代替療法の事例研修会 | 40 |
| 6/19 | 植物を用いる補完代替療法の事例研修会 | 40 |
| 6/25 | ELNEC-JCC コア会議 | 15 |
| 6/30 | がん看護 CNS コース会議 | 10 |
| 7/6 | 任和子 ゼミ | 10 |
| 7/8 | 京大ウエルネス研究会 | 10 |
| 7/10 | クリティカルケア看護学特論 夏期集中講義 | 15 |
| 7/11 | クリティカルケア看護学特論 夏期集中講義 | 10 |
| 7/13 | 任和子 ゼミ | 10 |
| 7/17 | クリティカルケア看護学特論 I 夏期集中講座 | 15 |
| 7/20 | 任和子 ゼミ | 10 |
| 7/20 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 7/29 | クリティカルケア看護学特論 夏期集中講義 | 15 |
| 8/5 | オープンキャンパス準備 | 10 |
| 8/6 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラムパイロットスタディ | 35 |
| 8/7 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラムパイロットスタディ | 35 |
| 8/8 | オープンキャンパス | 10 |
| 8/9 | オープンキャンパス | 10 |
| 8/17 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 8/19 | 修士入学試験準備 | 10 |
| 8/22 | 修士入学試験 | 10 |
| 8/23 | 修士入学試験 | 10 |
| 8/24 | 任和子 ゼミ | 10 |
| 8/26 | 博士課程入学試験 | 10 |
| 8/29 | 日仏ウイメンズヘルス研究会 | 40 |
| 8/31 | 任和子ゼミ | 10 |
| 9/3 | 精神認知障害事例研究会 | 40 |
| 9/4 | 精神認知障害事例研究会 | 40 |
| 9/7 | 任和子ゼミ | 10 |
| 9/12 | CNL(クリニカルナースリーダー)研究会および会議 | 20 |
| 9/14 | CNL(クリニカルナースリーダー)研究会および会議 | 20 |
| 9/21 | スピリチュアルケアセミナー | 30 |
| 9/21 | 任和子ゼミ | 10 |
| 9/21 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 9/23 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラムコア会議 | 20 |
| 9/24 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム | 20 |

| | | |
|-------|-----------------------------------|----|
| 9/25 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム | 20 |
| 9/28 | 任和子ゼミ | 10 |
| 9/30 | 第 16 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム | 16 |
| 10/1 | 第 16 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム | 16 |
| 10/2 | 第 16 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム | 16 |
| 10/3 | 生活習慣病看護学持論(修士・博士合同) | 20 |
| 10/5 | 任和子ゼミ | 10 |
| 10/7 | 共同研究先(清水研究室)との Meeting | 15 |
| 10/11 | 博士学位審査公開講演(岡研) | 20 |
| 10/12 | 任和子ゼミ | 10 |
| 10/12 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 10/15 | 専門的緩和ケア看護師教育プログラム | 35 |
| 10/19 | 任和子ゼミ | 10 |
| 10/19 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 10/20 | 生活習慣病看護学特別セミナー | 30 |
| 10/24 | 生活習慣病特論 | 30 |
| 10/29 | 臨床バイオメカニクス研究室大学院拡大ゼミ | 20 |
| 10/31 | 博士課程入学試験 | 10 |
| 11/1 | 博士課程入学試験 | 10 |
| 11/2 | 任和子ゼミ | 10 |
| 11/7 | 学科内会議 | 8 |
| 11/7 | 生活習慣病 | 30 |
| 11/9 | 任ゼミ | 10 |
| 11/11 | 特色入試 | 10 |
| 11/12 | 特色入試 | 10 |
| 11/13 | 特色入試 | 10 |
| 11/14 | 生活習慣病特論 | 30 |
| 11/16 | 任和子ゼミ | 10 |
| 11/16 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 11/21 | 生活習慣病特論 | 30 |
| 11/25 | 特色入試 | 10 |
| 11/26 | 特色入試 | 10 |
| 11/27 | 特色入試 | 10 |
| 11/30 | 任和子ゼミ | 10 |
| 12/7 | 任和子ゼミ | 10 |
| 12/9 | 公開講演会(博士学位審査) | 20 |
| 12/12 | クリティカルケア看護学特論 I | 15 |

| | | |
|-------|--|----|
| 12/13 | 臨床看護学講座卒論予演会 | 25 |
| 12/14 | 任和子ゼミ | 10 |
| 12/15 | 講義(第9講義室のプロジェクター不備のため、急遽) | 25 |
| 12/16 | がん看護 CNS 会議 | 10 |
| 12/17 | JPTSA 国際会議 | 50 |
| 12/19 | 生活習慣病特論 | 30 |
| 12/20 | 岡田光貴 学位論文公開講演会 | 30 |
| 12/21 | 任和子ゼミ | 10 |
| 12/21 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 12/22 | 田村ゼミ | 15 |
| 12/28 | 学部科目試験実施 | 15 |
| 1/4 | 新年挨拶会 | 50 |
| 1/11 | 任和子ゼミ | 10 |
| 1/18 | 任和子ゼミ | 10 |
| 1/18 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 1/22 | 専門的緩和ケア看護師教育プログラム | 30 |
| 1/23 | 公開講演会(博士学位審査) | 20 |
| 1/25 | 任和子ゼミ | 10 |
| 1/25 | 第2回京都母性衛生学会理事会 | 36 |
| 1/26 | 緩和ケア・老年看護学分野会議 | 12 |
| 1/27 | 足立研 古畑彩子 学位論文公開講演会 | 20 |
| 1/29 | JCCG AML 委員会(代表 足立壮一) | 15 |
| 2/1 | 任ゼミ | 10 |
| 2/8 | 任ゼミ | 10 |
| 2/10 | 京大ウエルネス研究会 工作カフェ開催 | 10 |
| 2/15 | ACP 看護研究会 | 20 |
| 2/18 | 多発性嚢胞腎患者会の小集会 | 30 |
| 2/20 | がん患者ピアサポート支援プログラム開発班会議 | 6 |
| 2/24 | 個別学力検査 | 10 |
| 2/25 | 個別学力検査 | 10 |
| 2/26 | 個別学力検査 | 10 |
| 3/3 | ELNEC-JCC コア会議 | 15 |
| 3/4 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム | 30 |
| 3/5 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム(第2日目) | 30 |
| 3/12 | がんサバイバー支援に関する検討会 | 20 |
| 3/15 | ACP 看護研究会 | 20 |

【高井コーナー 2016 年度利用記録】

高井コーナー（最大収容人数 約 10 人）は高井リサーチセンター 1 階南側に位置し、産学連携。学科内連携プロジェクトの研修会、打ち合わせに利用されている他、教職員の交流の場としても広く利用されています。2016 年度は下記に示す 90 件の利用がありました。

| 日付 | 会議名等 | 人数 |
|------|----------------------------|----|
| 4/7 | 人工神経開発会議 | 6 |
| 4/12 | 超音波開発会議 | 3 |
| 4/14 | 生活習慣病看護学ゼミ | 10 |
| 4/15 | 産学連携コンソーシアム会議 | 5 |
| 4/20 | 腰痛予防会議 | 10 |
| 4/30 | 田村研究室ゼミ | 12 |
| 5/11 | 看護師の腰痛防止 meeting | 10 |
| 5/11 | 臨床看護学講座歓送迎会準備 | 35 |
| 5/11 | 臨床看護学講座歓送迎会 | 35 |
| 5/13 | DT 会議 | 4 |
| 5/18 | 生活習慣病看護学 | 10 |
| 5/19 | 人工神経開発会議 | 6 |
| 5/19 | アスリートの腰痛ケア会議 | 6 |
| 5/25 | 平成28年度 第1回 TRC 運営委員会 | 5 |
| 5/26 | 看護師の腰痛防止会議 | 8 |
| 5/27 | 京都市産学連携事業 | 3 |
| 6/2 | 人工神経開発会議 | 6 |
| 6/2 | 人工神経開発会議 | 6 |
| 6/8 | 会議 | 3 |
| 6/15 | 生活習慣病看護学セミナー個別コンサルテーション | 5 |
| 6/16 | 生活習慣病看護学CNL特別講演 | 10 |
| 6/17 | 生活習慣病看護学CNL特別セミナー | 10 |
| 6/17 | 特許戦略会議 | 5 |
| 6/18 | 植物を用いる補完代替療法の事例研修会 | 40 |
| 6/19 | 植物を用いる補完代替療法の事例研修会 | 40 |
| 6/22 | 看護教育に関する検討会 | 6 |
| 7/6 | 長寿進行審査会打ち合わせ | 5 |
| 7/7 | 伊藤超短波株式会社安武様とのセミナー開催に関する会議 | 3 |
| 7/8 | 超音波測定筐体開発会議 | 5 |
| 7/25 | 装具開発会議 | 3 |

| | | |
|-------|---|----|
| 7/27 | 京都市長寿進行審査会打ち合わせ | 5 |
| 8/1 | 機器輸出に関して | 4 |
| 8/1 | PMS アプリ開発会議 | 8 |
| 8/3 | 足部の健康促進会議 | 5 |
| 8/4 | 膝スコア開発会議 | 5 |
| 8/5 | オープンキャンパス準備 | 10 |
| 8/6 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラムパイロットスタディ | 10 |
| 8/7 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラムパイロットスタディ | 10 |
| 8/8 | オープンキャンパス | 10 |
| 8/9 | オープンキャンパス | 10 |
| 8/19 | 修士入学試験準備 | 10 |
| 8/22 | 修士入学試験 | 10 |
| 8/23 | 修士入学試験 | 10 |
| 8/24 | リハビリテーションの事業化会議 | 4 |
| 8/25 | ベンチャーミーティング | 5 |
| 8/26 | 博士課程入学試験 | 10 |
| 8/29 | 日仏ウイメンズヘルス研究会 | 10 |
| 9/13 | 腰痛防止手技動作についての打合せ | 5 |
| 9/13 | 腰痛測定に関して | 6 |
| 9/14 | 子供のメンタルケア | 4 |
| 9/24 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム | 10 |
| 9/25 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム | 10 |
| 9/28 | 海外へのリハ輸出会議 | 3 |
| 9/30 | 第 16 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム | 16 |
| 10/1 | 第 16 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム | 16 |
| 10/2 | 第 16 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム | 16 |
| 10/5 | 特許会議 | 5 |
| 10/6 | 人工神経開発会議 | 5 |
| 10/15 | 専門的緩和ケア看護師教育プログラム | 10 |
| 10/24 | 伊藤超短波株式会社安武様との共同研究に関する会議 | 3 |
| 10/25 | ミナト医科学株式会社との共同研究に関する会議 | 4 |
| 10/31 | 博士課程入学試験 | 10 |
| 11/2 | ノーリフト会議 | 6 |
| 11/11 | 特色入試 | 10 |
| 11/12 | 特色入試 | 10 |
| 11/13 | 特色入試 | 10 |
| 11/15 | デバイス開発会議 | 5 |

| | | |
|-------|--|----|
| 11/21 | 第3回 TRC 運営委員会 | 5 |
| 11/24 | 新規商品開発 | 5 |
| 11/25 | 特色入試 | 10 |
| 11/26 | 特色入試 | 10 |
| 11/27 | 特色入試 | 10 |
| 12/1 | 新製品開発会議 | 6 |
| 12/12 | PMS 会議 | 6 |
| 12/13 | 看護師の腰痛防止会議 | 6 |
| 12/17 | JPTSA 国際会議事務作業所 | 10 |
| 12/21 | SCPE 産官学連携打合せ | 3 |
| 12/22 | 田村ゼミ資料他準備 | 15 |
| 1/4 | 新年挨拶会(準備室) | 50 |
| 1/16 | 足部開発会議 | 5 |
| 1/22 | 専門的緩和ケア看護師教育プログラム準備 | 30 |
| 1/24 | スコア開発会議 | 6 |
| 2/8 | 健康アプリ meeting | 5 |
| 2/21 | 総務省プロジェクト会議 | 6 |
| 2/24 | 個別学力検査 | 10 |
| 2/25 | 個別学力検査 | 10 |
| 2/26 | 個別学力検査 | 10 |
| 3/3 | ELNEC-JCC コア会議 | 15 |
| 3/4 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム | 10 |
| 3/5 | ELNEC-J クリティカルケアカリキュラム指導者養成プログラム(第2日目) | 10 |

編集後記

本、高井リサーチセンター（TRC）が開設してから早くも9年が経過しました。これまでに3つの産学連携プロジェクトが終了し、また今回報告をおこなった3件のプロジェクトも今年度をもって終了を迎えます。これにともない昨年7月～9月の3ヶ月間に渡り新規プロジェクトの公募を行い、新たに3つの産学連携推進プロジェクトを選出しました。この新規の3つのプロジェクトについては来年度の報告書で、研究内容とともに紹介させていただきます。

我々高井リサーチセンター運営委員会は今後とも、高井リサーチセンターにおける産学連携を基盤とした一層の研究推進を図っていく所存であります。

なお、この報告書で紹介する内容はこれまでと同様に、知財との関係上限定的なバージョンとなっていますことをご了承お願いいたします。個々の研究プロジェクトにご関心を抱いて頂き、あらたな提案などございますようなら、是非とも各プロジェクト担当責任者にご連絡頂きたく、連絡先を記載しておきましたのでご利用ください。

平成29年3月

高井リサーチセンター運営委員会
精山 明敏
aseiyama@hs.med.kyoto-u.ac.jp



京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町5-3

TEL : 075-751-3901

<http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/>